

# 概要報告

実施期日	8月1日(木)
部会名	中学校 美術部会

## 神奈川県研究主題

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

## テーマ

『個別の支援が必要な生徒への手立て』

## 提案概要

実践題材名 「子どもが気付きを得るための働きかけ～1年生「多色刷り版画」実践を通して～」

課題意識として、表現への思いが強いあまり、理想とする表現を実現できずに迷ってしまう生徒や、主体的な活動ができずに支援が必要な生徒などが、活動の見通しを立てながら表現を追求する経験を得ることを目指している。実践として、版画制作という多数の工程で区切られている題材の中で、生徒同士が助け合うことや、気づいたことを伝え合うなどお互いに働きかけることで、表現活動を深める手立てにすることを提案とする。

授業のプロセスは以下の通りである。

- ① 2点の抽象絵画の鑑賞を行い、造形的な特徴や構成や装飾などについて感じたことを述べ合う。版画作品を鑑賞し、代表的な4つの版種の製作技法の仕組みを理解する。(1時間)
- ② 鑑賞で学んだことを基に、等身大の自分の感情や好きなことのイメージから主題を生み出す。鉛筆で2枚のアイデアスケッチを描き、木版画の構成を考える。(1時間)
- ③ 2種類の版下図を制作する中で、途中で鑑賞を行い客観的な視点に立って他者の作品を見たり、自分の意図を説明することで、表したいものをより明確にする。(1時間)
- ④ 完成した刷り上がりを想定して、彫る部分とに残す部分のバランスや左右対称性などを確認しながらゴム板に版画図を写していく。(2時間)
- ⑤ 彫刻刀の種類、持ち方、彫り方を理解し、製版に取り組む。(4時間)
- ⑥ 2つの版の配色を決めて1枚の紙に刷り重ねる。(1時間)
- ⑦ 様々な配色で刷りながら、級友のアドバイスなどを手がかりに「題名」を考える。材料や用具、表現方法の工夫について、積極的に意見交換するよう声をかける。(1時間)
- ⑧ お互いに完成作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを説明し合う。(1時間)

## 質疑応答

Q: 作品の題名を知りたい

A: 『本当の不安』など感情をテーマにしたものの他、完成した作品の印象から題名を付けている生徒も多くいる。

Q: 指導案に対して、A 表現 (1) イ (ア) の目標「構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構成を練ること。」は、基本的にはデザインの分野なので、絵や彫刻に表す表現とはズレているのではないか。どういう意図でこの部分を目標にしたのかを聞きたい。

A: 画面の構成を考える上でこの目標につながると思ったが、評価の見取りの狙いをもって目標設定をする上では、改めて見直す必要がある。

## 協議の柱及び協議概要

「個別の支援が必要な生徒への手立て」

\*参加者にワークシートを配布し、「中学校 1 年生・前期・描く活動」という想定で、発達に問題があると思われる支援が必要な生徒に対してどのような「指導・支援・配慮(導入や声掛けなど)」と「目指したい姿」が挙げられるか考えてもらう。(協議時間 40 分)

### ●グループ発表 (例)

- ・どうやって前向きに活動に取り組んでもらえるかを考えた。まずは生徒理解を深めコミュニケーションをとって関係性を深めることが大事。
- ・この生徒は自己肯定感が低いのではないか、「これなら自分にもできるんじゃないか」と思わせる題材選択が必要。
- ・モダンテクニックや偶然性を活かせる抽象画などを設定してみる。
- ・普段使わないような道具などを用意して興味を引いてもらう。
- ・本人が描けない部分はこちらで描いてあげてもいい。どこまで本人ができるのかこちらで模索してあげる。
- ・個々の声掛けから始まり、好きなものや雑談などで生徒理解から始める。
- ・周囲の友人達の協力を得る、声をかけるよう周囲の子たちに協力を仰ぐ。
- ・題材に対してのイメージのマッピングを視覚的に行う。
- ・マンツーマンで付いてあげると他の子への支援ができなくなる難しさがある。
- ・3 年間を見通して楽しんで制作に取り組んでもらえるよう、長いスパンで見る。
- ・中学校は評価があるので、小学校とは違う難しさがある。「描けなくてもいい」では終われない。

## まとめ概要

### 1. 題材について

版画という複雑な工程を要する題材だからこそ、製版・印刷の工程において、生徒同士が教え合う機会を意図的に設定することで、生徒自らが協働して課題に向かう姿を見ることができた。また、他の生徒からの助言を受けて、より自己の表現を追求する様子が見られた。

### 2. 協議について

グループ協議では小学校と中学校の教員が混ざっている状態で行われ、それぞれの学校環境での情報や意見を交換しながら議論が行われた。テーマとして挙げられている想定生徒に対してだけでなく、自身の経験を基にした個別支援の例などをお互い共有し合う様子が見られた。